

原木・製品生産のアンケート結果等 (九州地区)

令和3年5月
林野庁

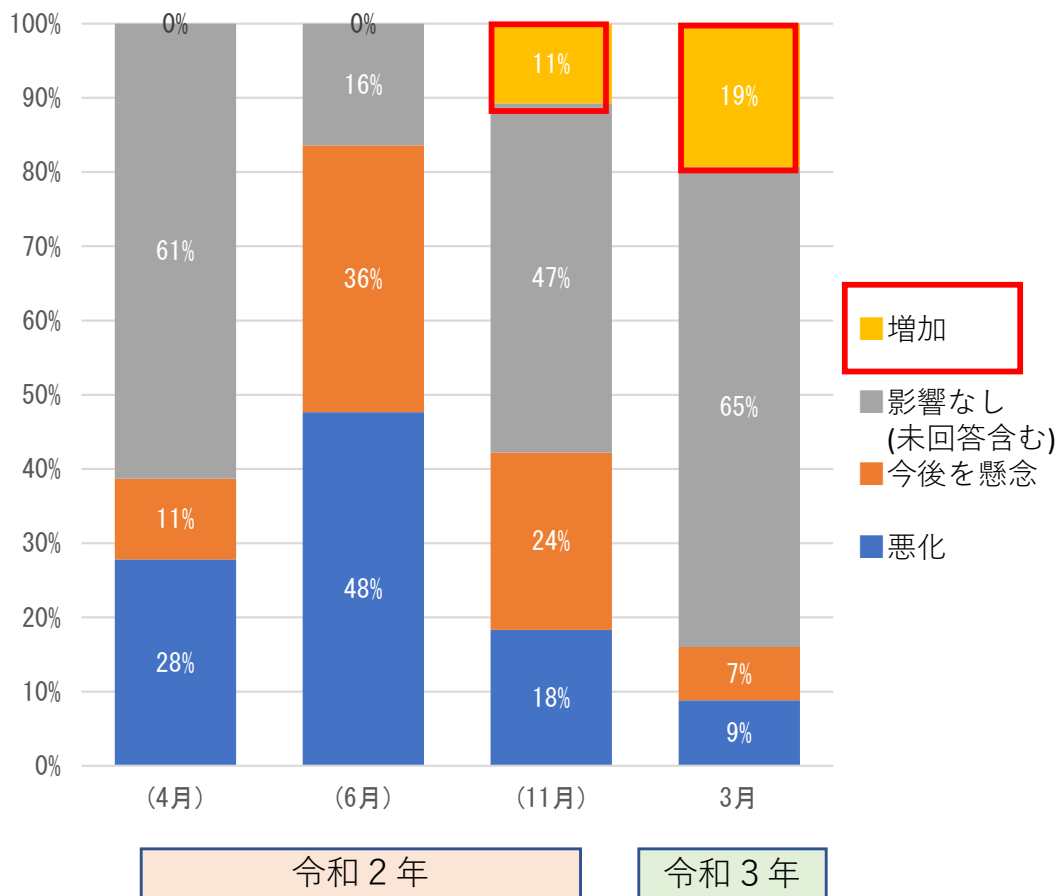
1 原木生産（全国）

素材生産事業者を対象に令和3年3月の状況について調査（※）したところ。

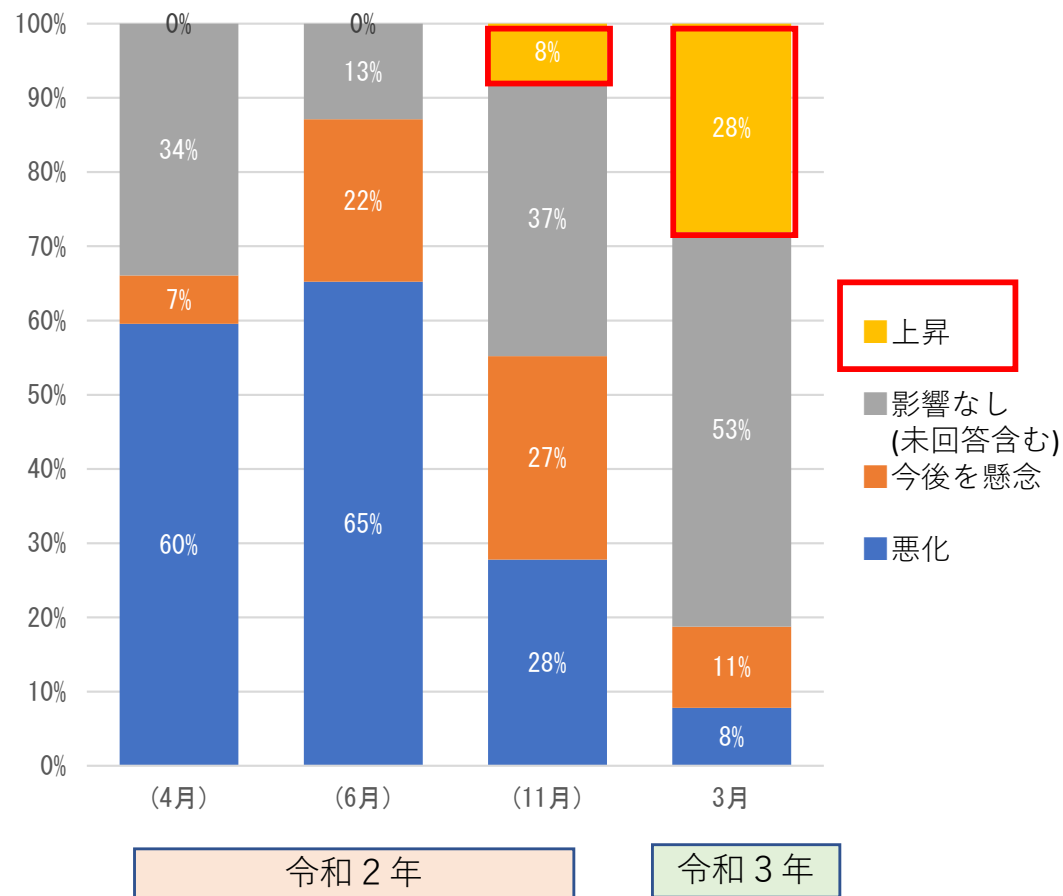
- 原木の出荷状況について、「悪化」及び「今後を懸念している」の回答は、令和2年6月の約8割をピークとして約2割まで大きく減少。一方、「増加」の回答が令和2年11月の約1割から約2割へと増加（対前年同月比）。
- 原木の販売単価の状況について、「悪化」及び「今後を懸念している」の回答は、令和2年6月の約9割をピークとして約2割まで大きく減少。一方、「上昇」の回答が令和2年11月の約1割から約3割へと増加（対前年同月比）。

○原木の出荷・販売単価の状況

■原木の出荷状況（前年同月比）



■原木の販売単価の状況（前年同月比）



※ 回答数は令和2年4月：230社、6月：256社、11月：251社、令和3年3月：181社

資料：林野庁木材産業課調べ

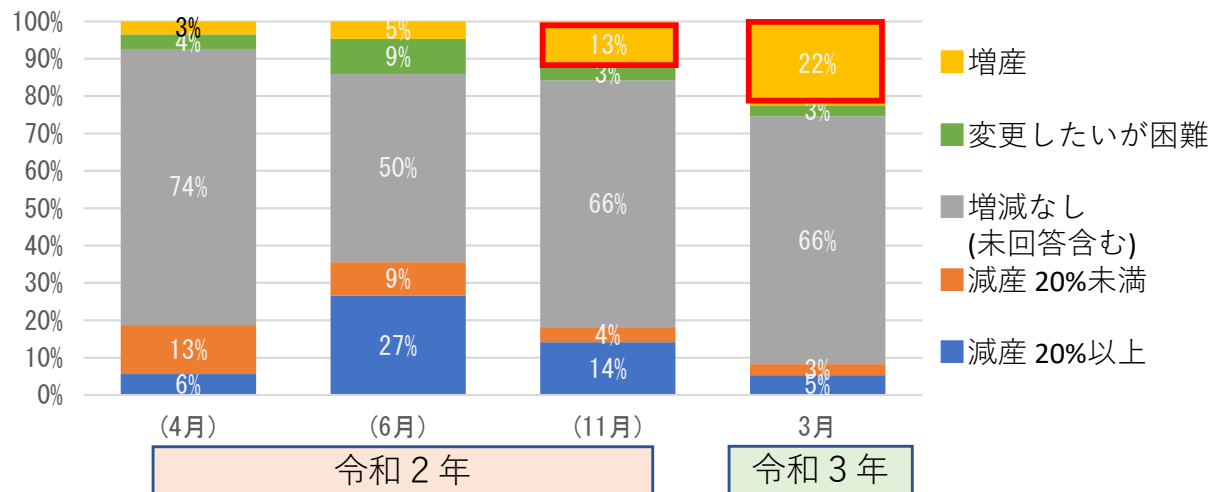
調査対象：各都道府県選定の素材生産事業者

1 原木生産（全国）（つづき）

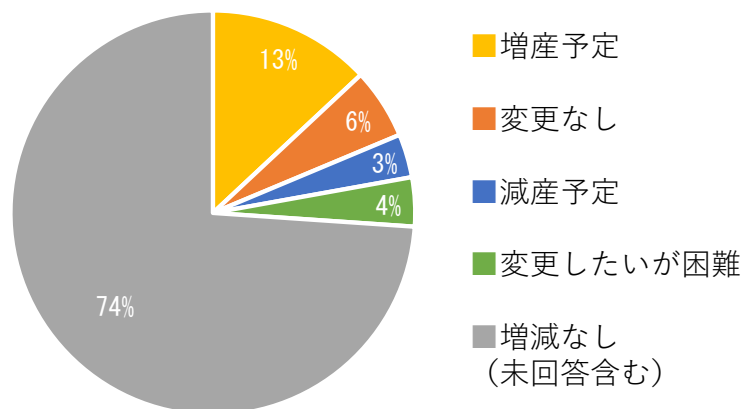
- ・現状の素材生産状況について、「減産している」の回答は6月をピークに減少傾向。一方、「増産」の回答が約2割と増加傾向（対前年同月比）。
- ・令和3年4月以降の素材生産見込みについて、「増産予定」の回答は約1割。

○素材生産状況（現状、4月以降）

■素材生産状況（現状）（前年同月比）



■令和3年4月以降の素材生産見込み



【出荷状況】

○「増加」と回答

- ・合板・製材工場が原木不足のため、出荷量が増えている
- ・市場の相場が良く、輸出向けの引き合いが強い
- ・引き合いが強く、主間伐を主体に増産傾向

○「悪化」及び「今後を懸念」と回答

- ・今年は積雪が多く除雪をしながらの作業となり、思うような原木出荷ができなかった
- ・市場価格は上昇しているが、搬出量が伸びない
- ・合板工場の生産調整から受け入れ制限が予想される。

【雇用の状況変化】

○「変化有り」と回答

- ・運材車不足解消のため、運転手を新たに雇用予定
- ・素材生産量の増加に伴い作業員を雇用

○「変化無し」と回答

- ・自社トラック運転手退職により、人手不足
- ・雇用を増やしたいが応募が無い
- ・新たな雇用を行いたいが、不安定な状況のため慎重に進めている

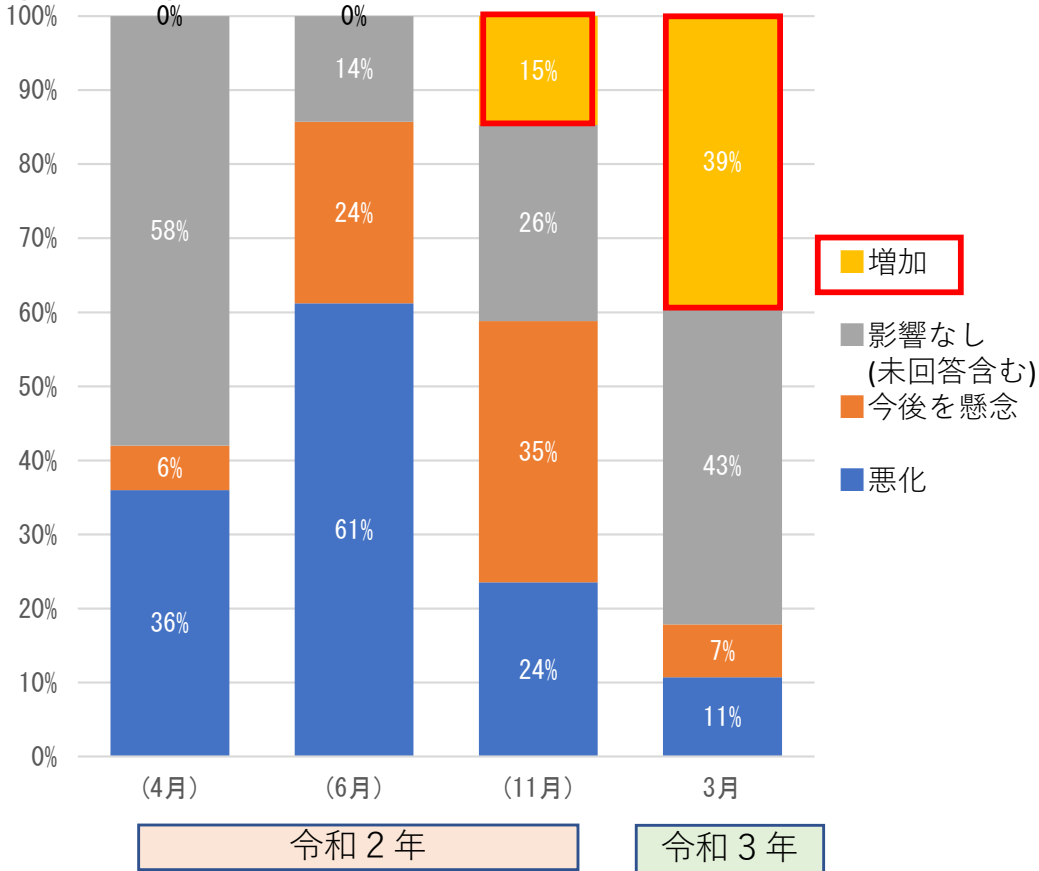
1 原木生産（九州地区）

九州地区の素材生産事業者を対象に令和3年3月の状況について調査（※）したところ。

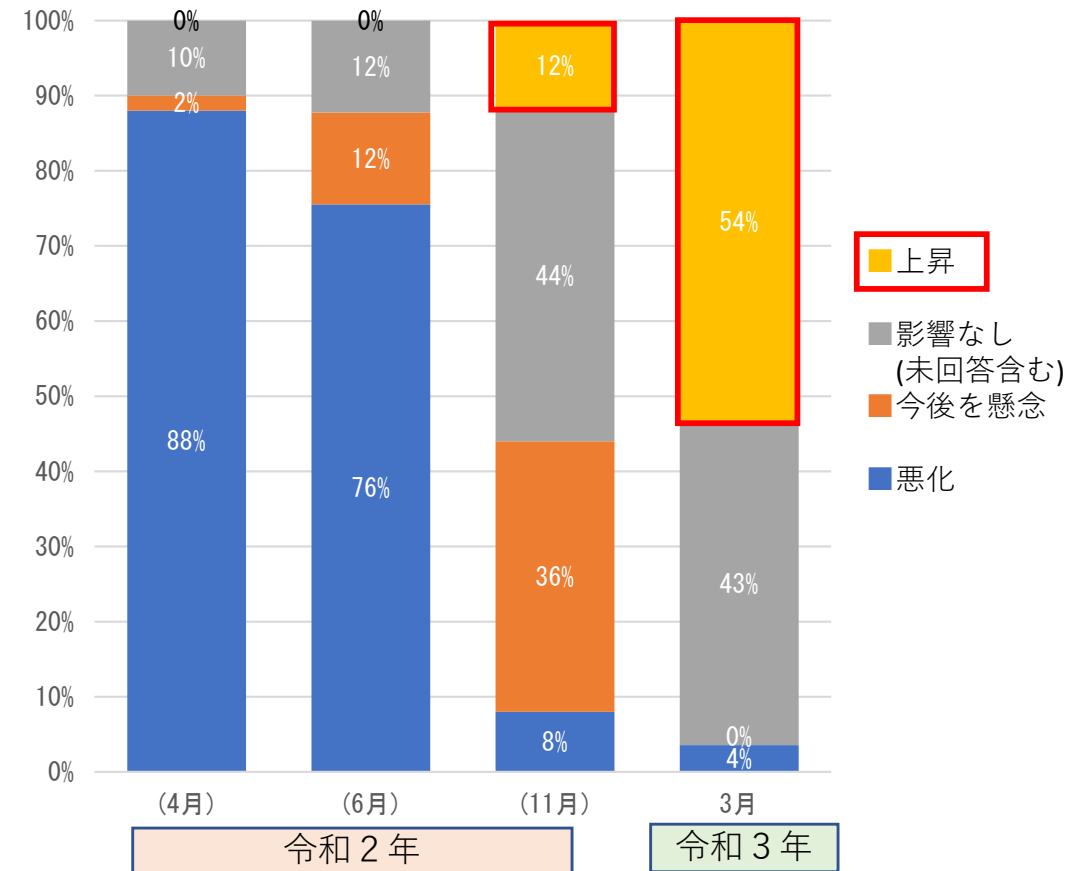
- 原木の出荷状況について、「悪化」及び「今後を懸念している」の回答は、令和2年6月の約9割をピークとして約2割まで大きく減少。一方、「増加」の回答が令和2年11月の約2割から約4割へと増加（対前年同月比）。
- 原木の販売単価の状況について、「悪化」及び「今後を懸念している」の回答は、令和2年4月の約9割をピークとして1割未満まで大きく減少。一方、「増加」の回答が令和2年11月の約1割から約5割へと増加（対前年同月比）。

○原木の出荷・販売単価の状況

■原木の出荷状況（前年同月比）



■原木の販売単価の状況（前年同月比）



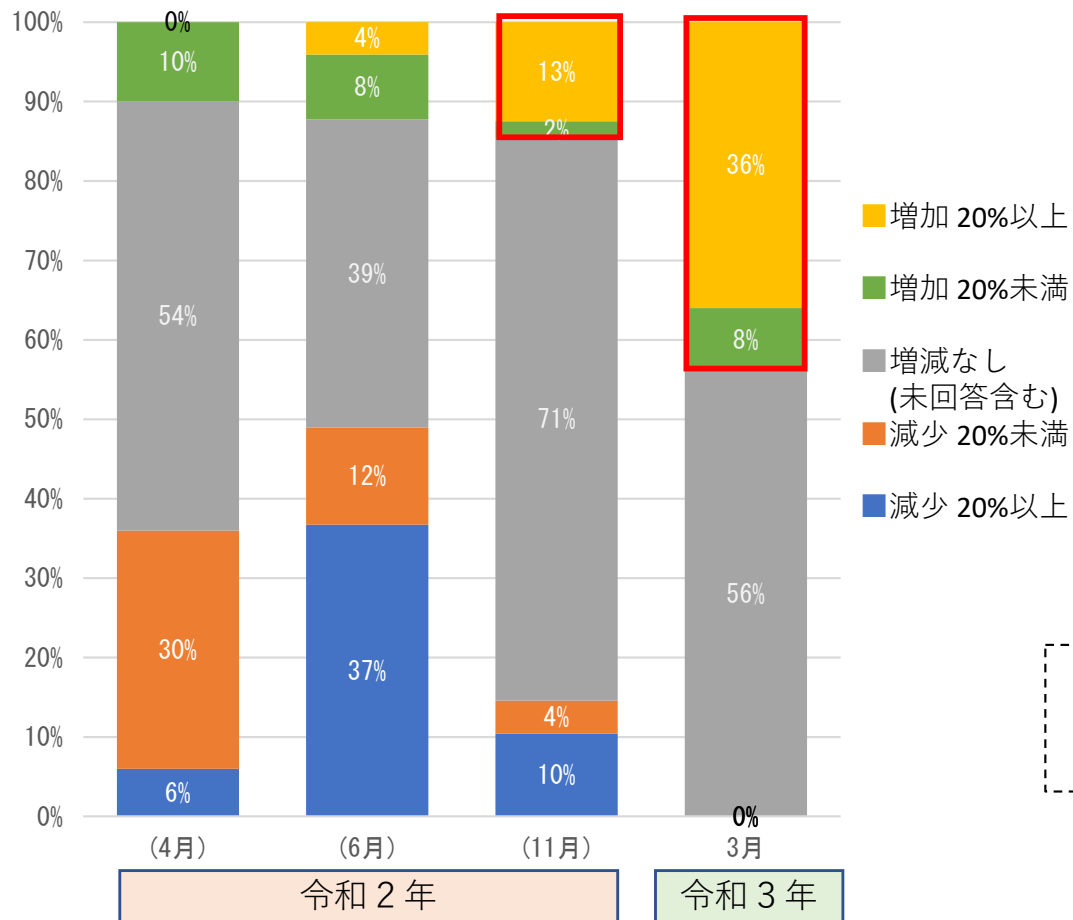
※ 回答数は令和2年4月：50社、6月：49社、11月：34社、令和3年3月：28社
 資料：林野庁木材産業課調べ
 調査対象：九州地区の各都道府県選定の素材生産事業者

1 原木生産（九州地区）（つづき）

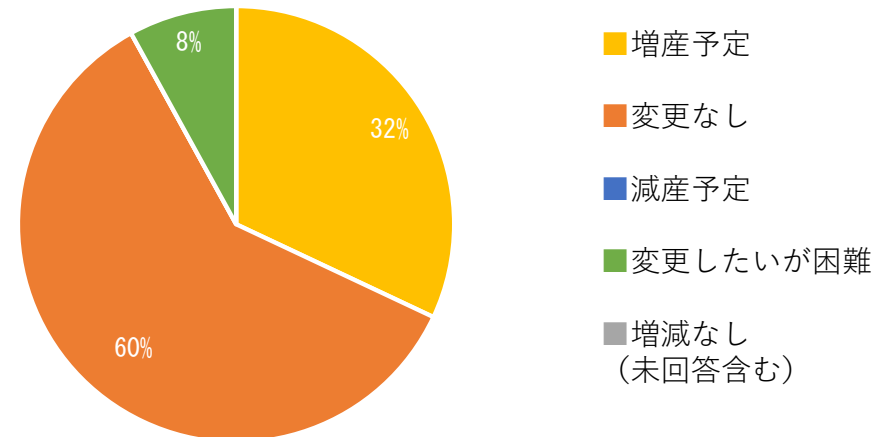
- ・現状の素材生産状況について、「減産」の回答は、令和2年6月の5割をピークとして0になった（11月は約1割）。一方、「増加」の回答が令和2年11月の約2割から約4割へと増加（対前年同月比）。
- ・令和3年4月以降の素材生産見込みについて、「増産予定」と回答した事業者は約3割。「減産予定」と回答した事業者はいなかった。

○素材生産状況（現状、4月以降（予定））

■素材生産状況（現状）（前年同月比）



■令和3年4月以降の素材生産見込み



【出荷・生産状況について】

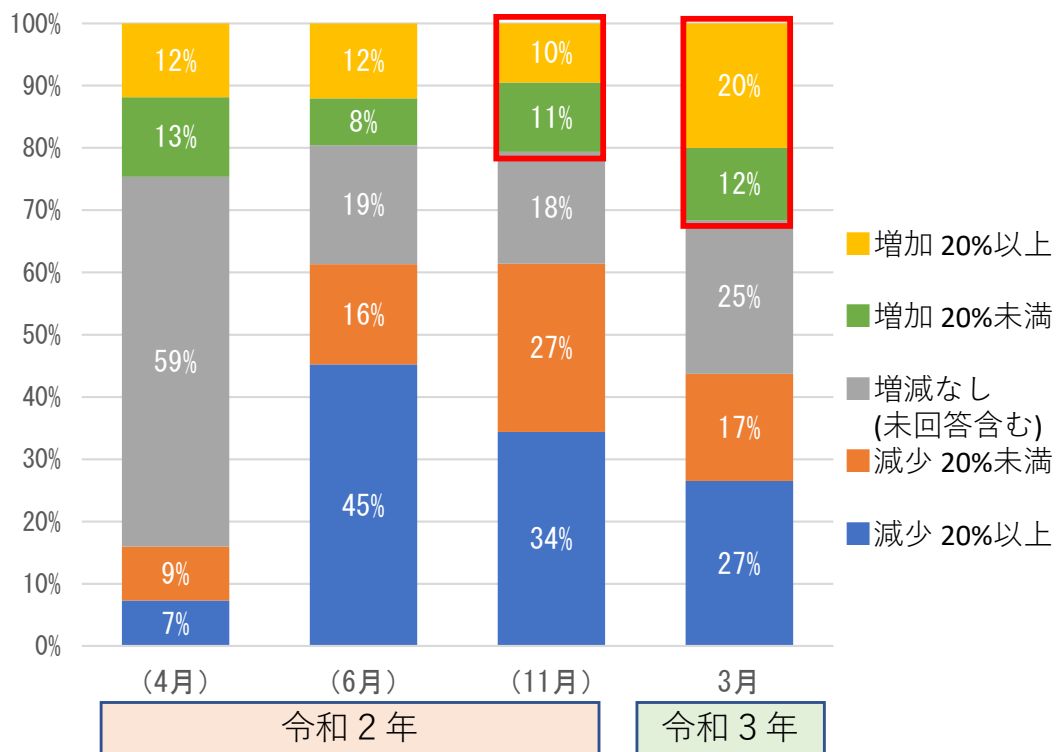
- ・相場の上昇から主間伐を主体に昨年度より増産傾向にある。
- ・輸出が好調なことから需要に対して供給が不足している。

2 製材（全国）

全国の大手製材工場を対象に令和3年3月の状況について調査（※）したところ。

- 原木の入荷状況について、「減少」の回答は、令和2年6月の約6割をピークとして約4割まで若干の減少。一方、「増加」の回答が令和2年11月の約2割から約3割へと増加。
- 製品の生産状況について、「減少」の回答は、令和2年6月の約6割をピークとして約3割まで減少。一方、「増産」の回答が令和2年11月の約2割から約4割へと増加。

○原木の入荷状況

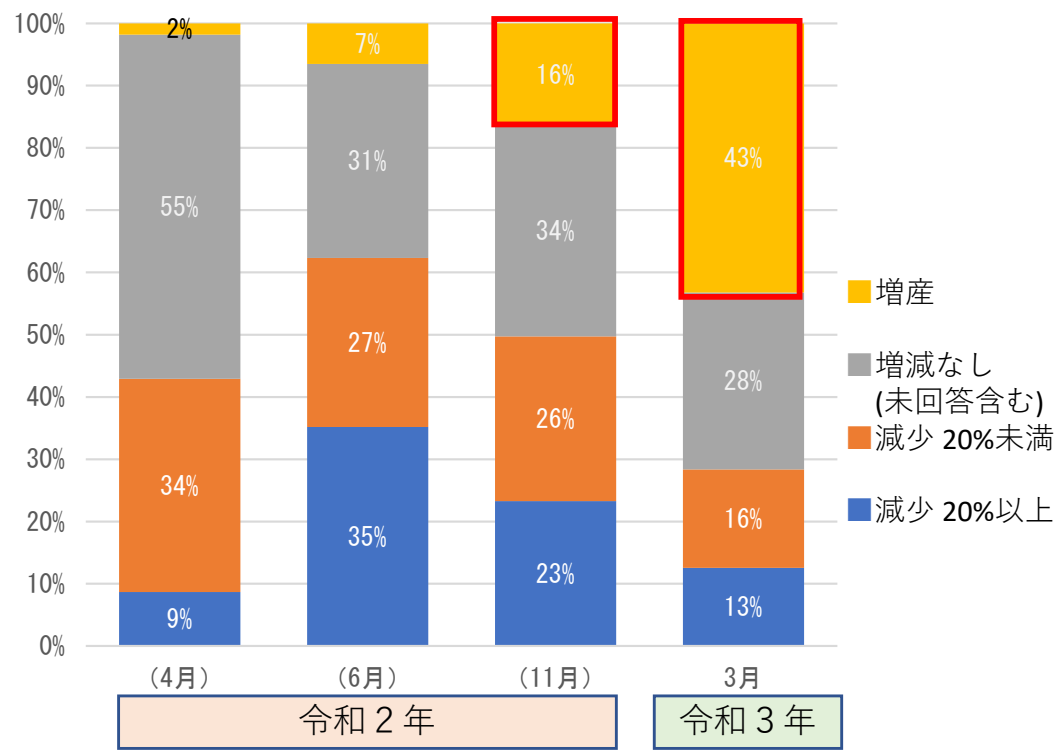


（増加理由について、コメントなし）

【減少理由】

- 生産は増産していきたいが、原木の入荷の見通しが厳しい
- 外材の状況により国産材への切り替えを行っているため、入荷量は減っている

○製品の生産状況



【増産理由】

- 強い需要を受けフル生産を継続。価格は原木価格に合わせ値上げを行う

【減少理由】

- 雇用調整助成金を利用し稼働を減少させている
- 原木価格を製品価格に転嫁できるか不安
- 原木不足による歩留まり重視の製材のため、製造工程が増えた

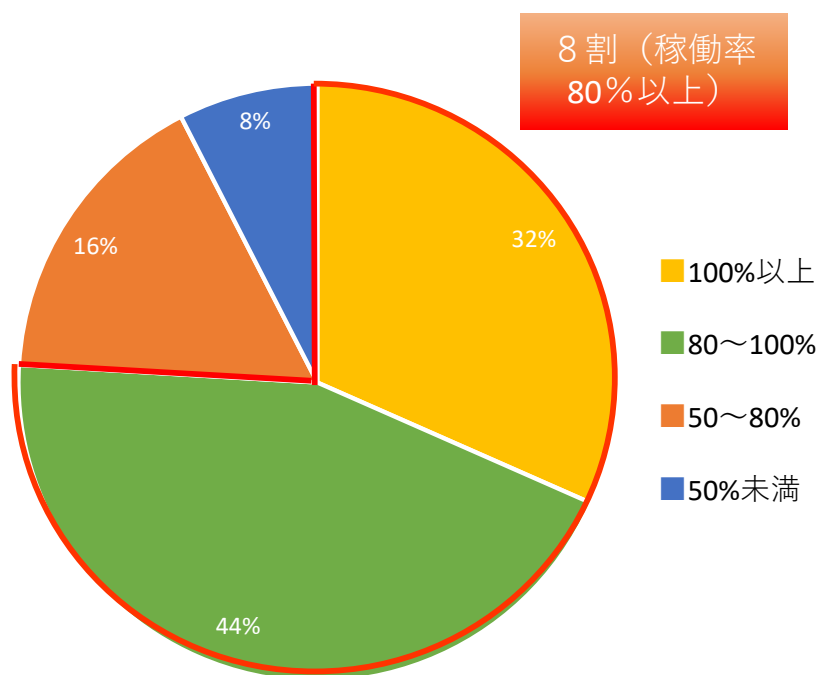
※ 回答数は令和2年4月：219社、6月：199社、11月：189社、令和3年3月：215社

資料：林野庁木材産業課調べ 調査対象：全国の製材工場（国産材原木消費量1万m³/年以上）

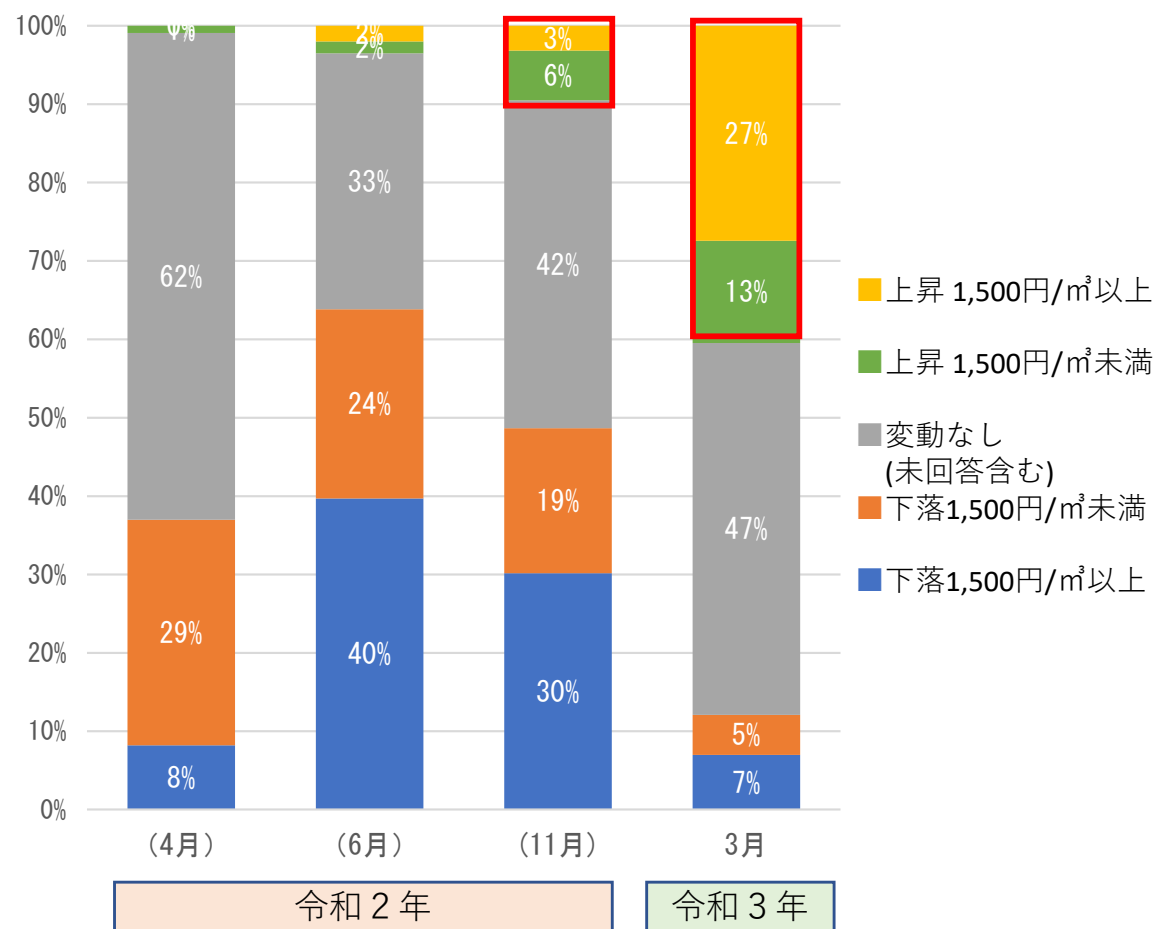
2 製材（全国） つづき

- ・ 製材工場の令和3年3月の稼働率について、約8割の工場が80%以上の稼働率と回答。
- ・ 製品の価格動向について、「下落」の回答は、令和2年6月の約6割をピークとして約1割まで大きく減少。一方、「上昇」の回答が令和2年11月の約1割から約4割へと増加。

○全国の稼働率状況



○製品の価格動向

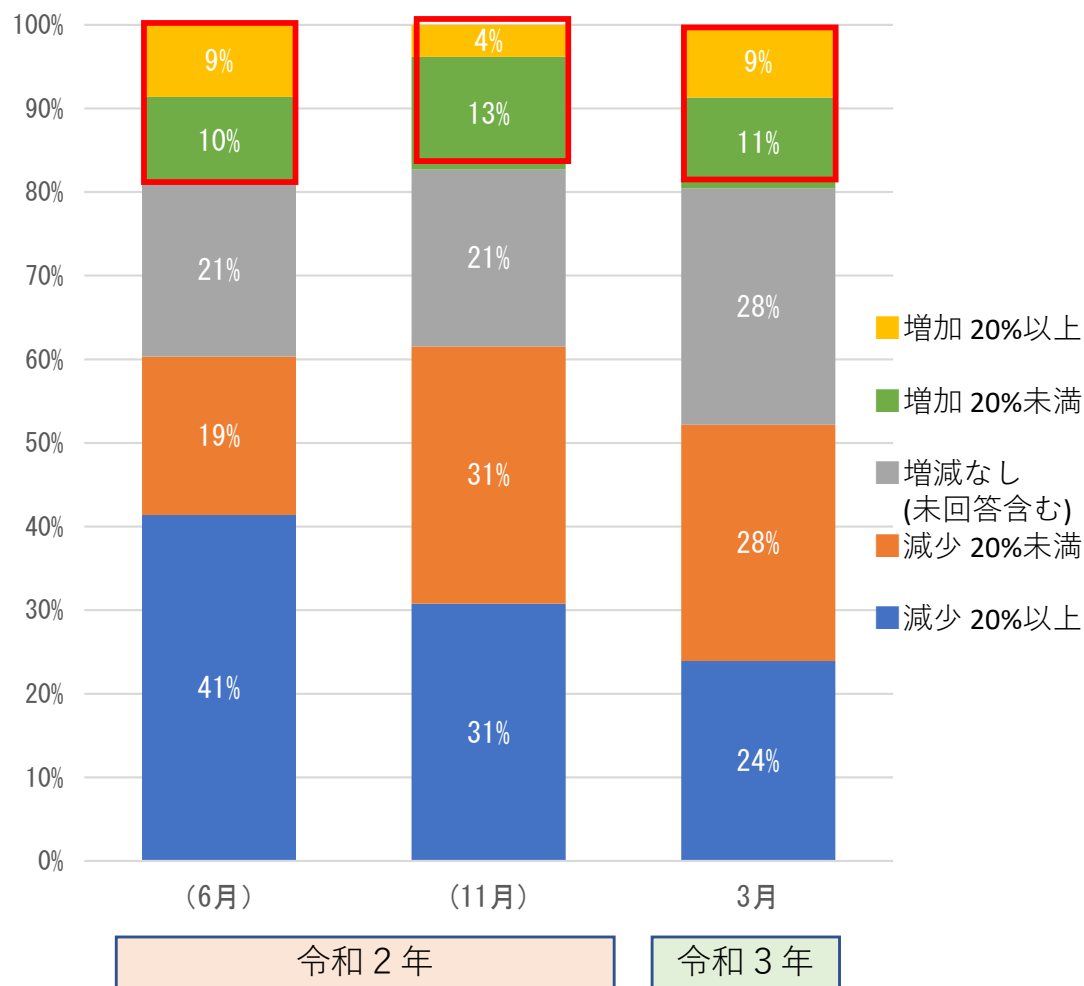


2 製材（九州地区）

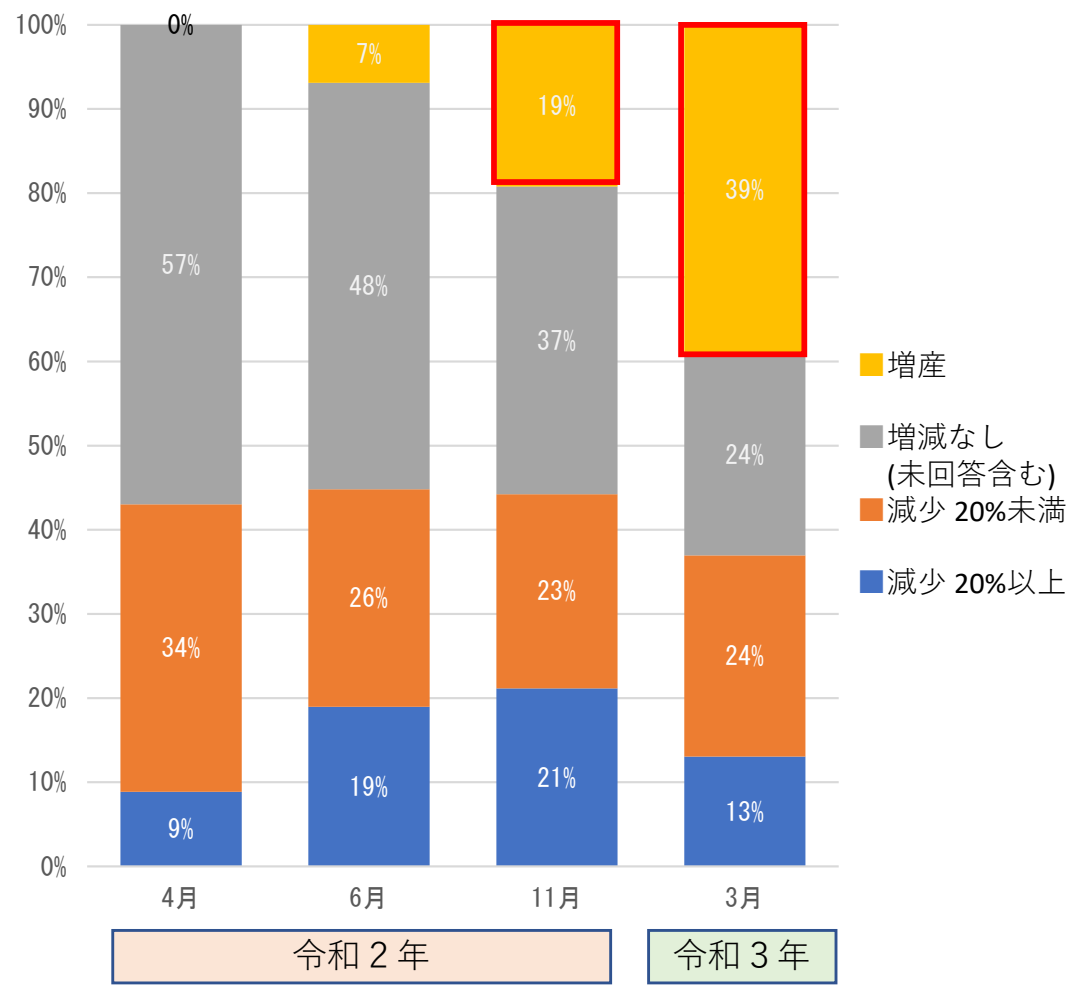
九州地区の大手製材工場を対象に令和3年3月の状況について調査(※)したところ。

- 原木の入荷状況について、「減少」の回答は、令和2年11月の約6割をピークとして約5割まで若干の減少。一方、「増加」の回答が令和2年6月の約2割から横ばい。
- 製品の生産状況について、「減少」の回答は令和2年6月の約5割をピークとして約4割まで若干の減少。一方、「増産」の回答が令和2年11月の約2割から約4割へと増加。

○原木の入荷状況



○製品の生産状況

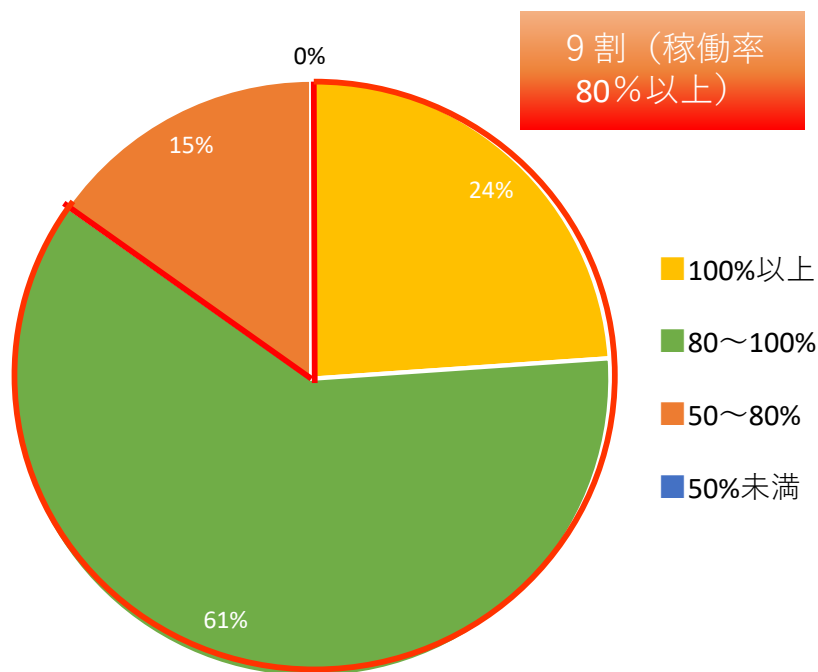


※ 回答数は令和2年4月：79社、6月：58社、11月：52社、令和3年3月：46社
資料：林野庁木材産業課調べ 調査対象：九州地区の製材工場(国産材原木消費量1万m³/年以上)

2 製材（九州地区）つづき

- 九州地区の製材工場の令和3年3月の稼働率について、約9割の工場が80%以上の稼働率と回答。（全国ベースでは約8割。）
- 製品の価格動向について、「下落」の回答は、令和2年6月の約6割をピークとして約1割まで大きく減少。一方、「上昇」の回答が令和2年11月は0だったものが、約4割へと増加。

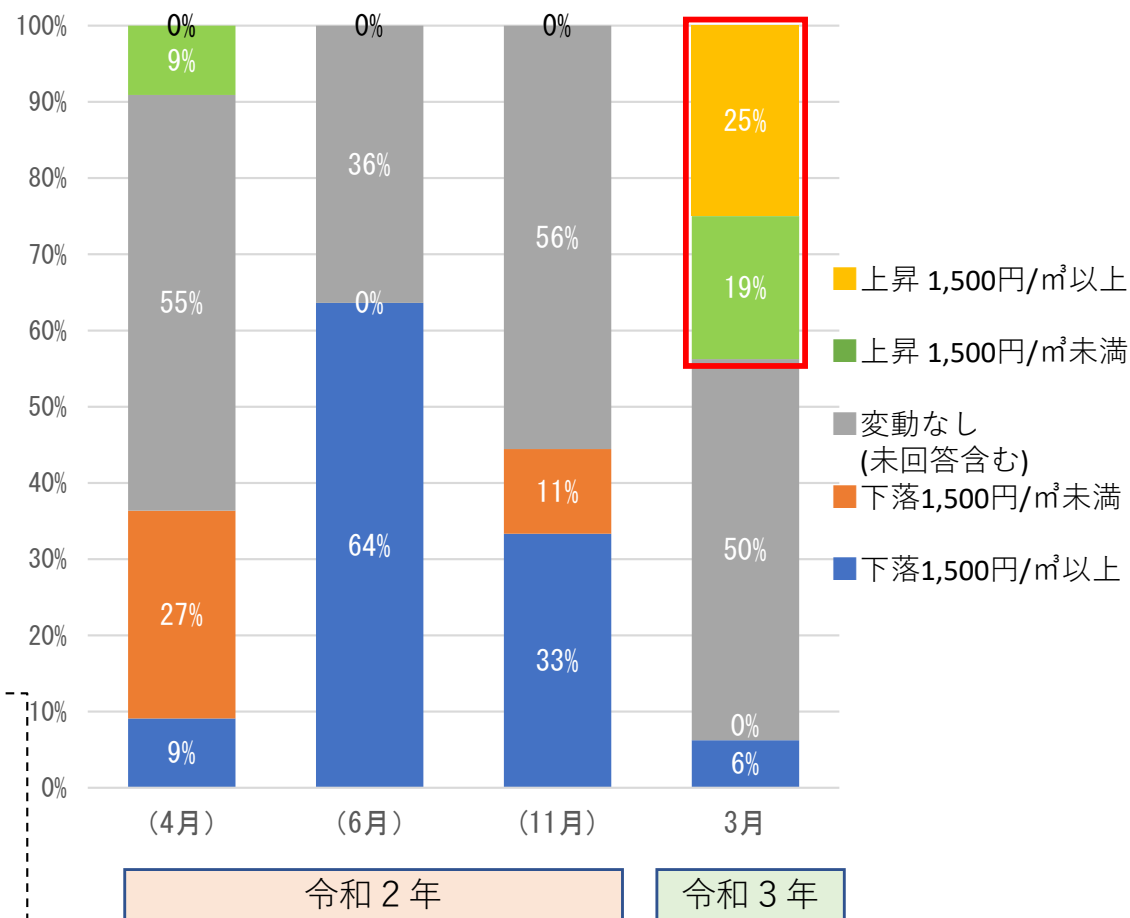
○九州地区の稼働率状況



■九州地区

- 原木価格について、令和2年11月頃から上昇の兆しが見られ、令和3年3月にはさらに上昇した。一方、製品価格については、11月頃はまだ上昇が見られず、3月頃に上昇の兆しが見られた。
- 稼働率については、8割以上稼働している工場数が約9割であり、令和3年3月はフル稼働で生産にあたっている状況。

○製品の価格動向

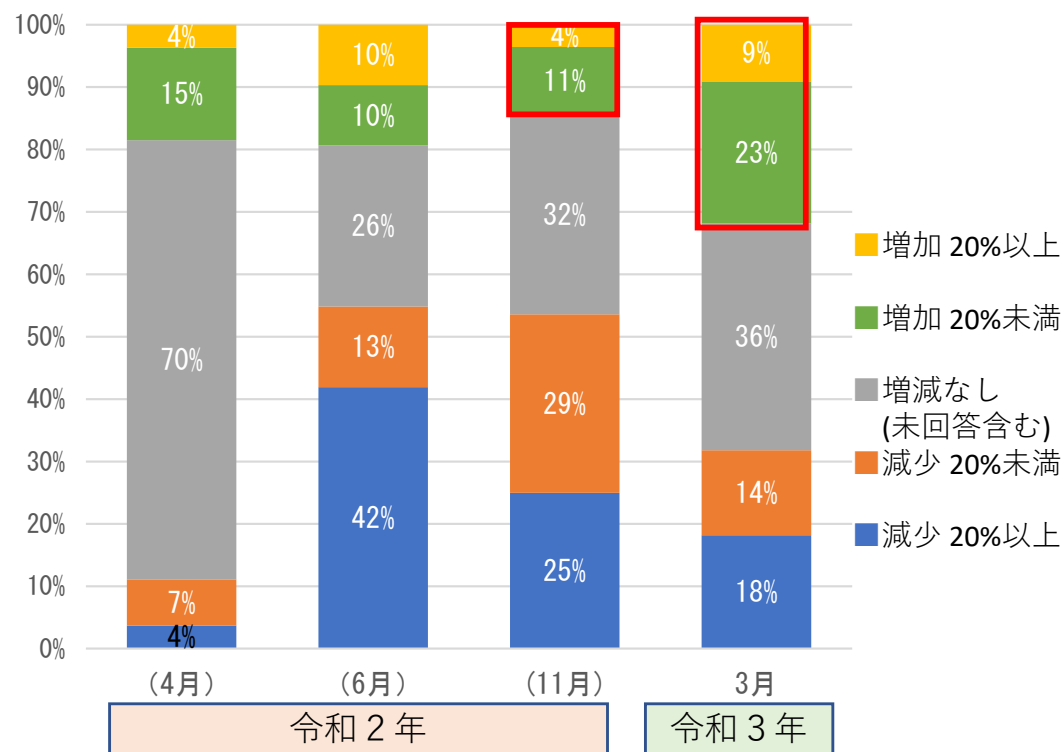


3 合板（全国）

全国の合板工場を対象に令和3年3月の状況について調査(※)したところ。

- 原木の入荷状況について、「減少」の回答は令和2年6月の約6割をピークとして約3割まで大きく減少。一方、「増加」の回答が令和2年11月の約2割から約3割へと若干の増加。
- 製品の生産状況について、「減少」の回答は令和2年6月の約8割をピークとして約3割まで大きく減少。一方、「増産」の回答が令和2年11月の約3割から約5割へと増加。

○原木の入荷状況

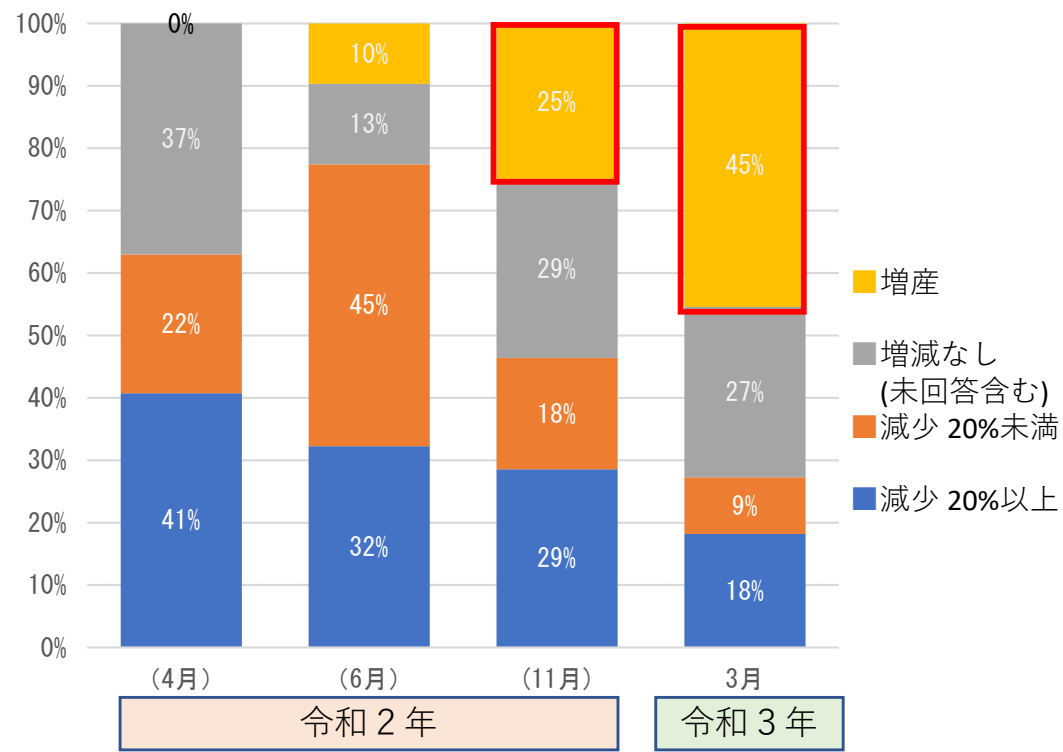


(増加理由について、コメントなし)

【減少理由】

- 原木価格が高騰しており、かつ数量確保も困難な状況
- 検品員が渡航出来ず通常、2社から入荷していたが1社からしか入荷できないため、原料仕入れが順調にいかない

○製品の生産状況



【増産理由】

- 4月以降、注文が増えてきているので計画の10%増で生産予定。

【減少理由】

- 原料（接着剤、原木）が上昇している中で製品価格の値上げがついて来ない
- 外材の高騰等により住宅関係は材料不足で受注調整

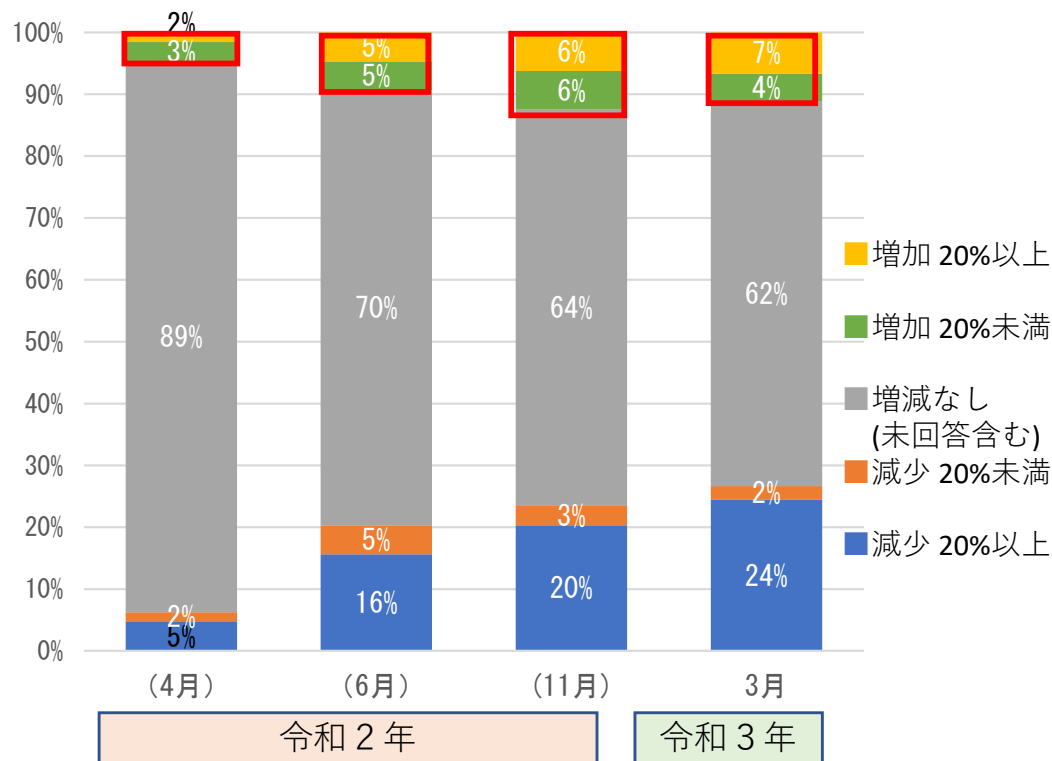
※ 回答数は令和2年4月：27社、6月：31社、11月：28社、令和3年3月：22社
資料：林野庁木材産業課調べ 調査対象：全国の合板工場(LVL工場を含む)

4 集成材（全国）

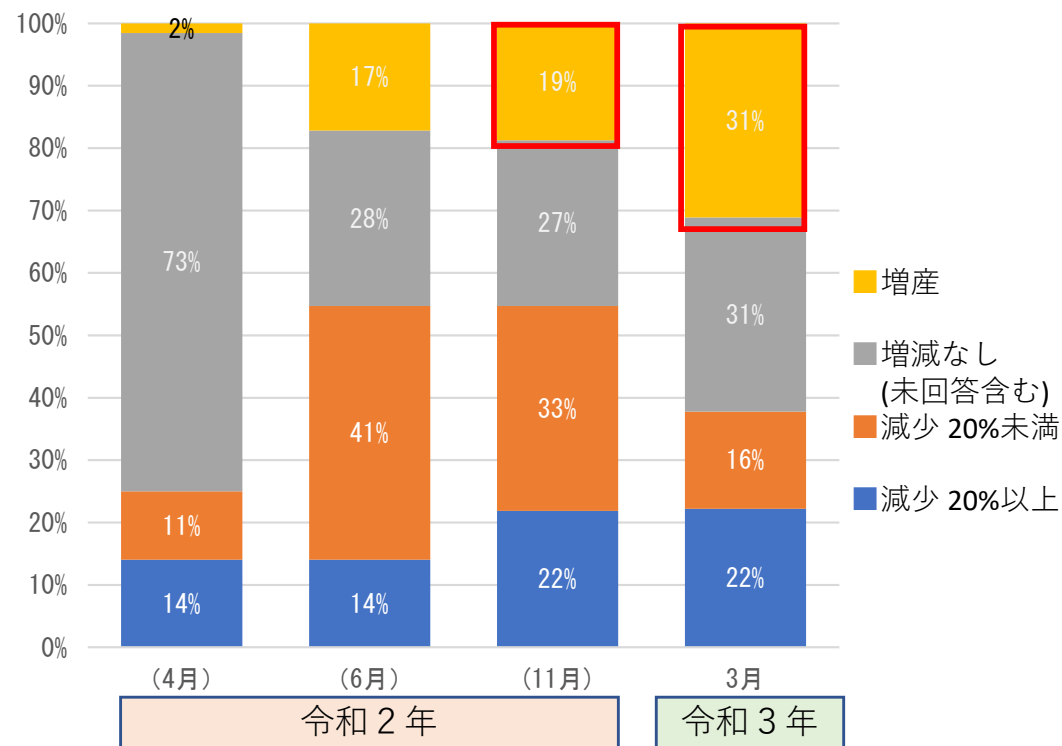
全国の集成材工場を対象に令和3年3月の状況について調査（※）したところ。

- 原木の入荷状況について、「減少」の回答は、令和2年4月から連続して増加傾向。一方、「増加」の回答が令和2年4月の約1割から横ばい。
- 製品の生産状況について、「減少」の回答は、令和2年6月の約6割をピークとして約4割まで減少。一方、「増産」の回答が令和2年11月の約2割から約3割へと若干の増加。

○原木の入荷状況



○製品の生産状況



（増加理由について、コメントなし）

【減少理由】

- 輸入材の高騰、物量減を受け、国産材も高騰し全体的に資材手配がひっ迫した状況
- 輸入原材料価格は昨年3月と比較すると70%超増の見込み。それでも契約できれば御の字な状態

【増産理由】

- 輸入材の高騰及び入荷難が表面化したことにより、代替品としての問い合わせが急増

【減少理由】

- 材料不足により生産を減らしている

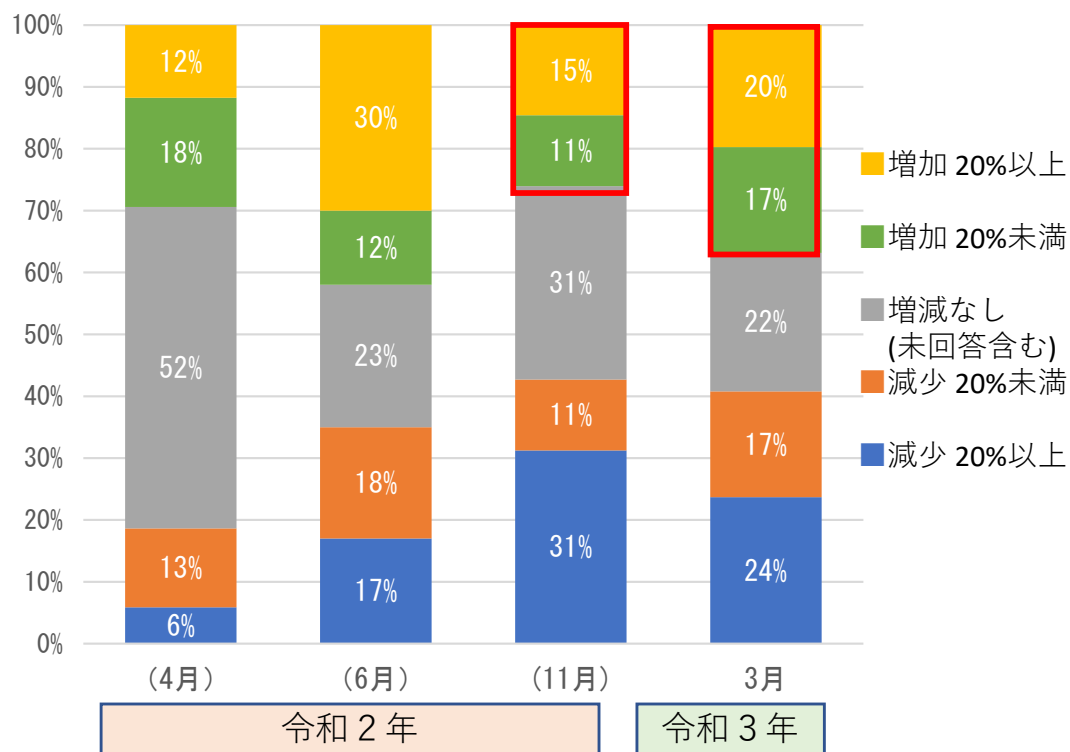
※ 回答数は令和2年4月：64社、6月：64社、11月：64社、令和3年3月：45社
資料：林野庁木材産業課調べ 調査対象：全国の集成材工場（原木を入荷していない工場も含む）

5 チップ（全国）

全国の大手中チップ工場を対象に令和2年11月の状況について調査（※）したところ。

- 原木の入荷状況について、「減少」の回答が令和2年11月の約4割から横ばい。一方、「増加」の回答が令和2年11月の約3割から約4割へと若干の増加。
- 製品の生産状況について、「減少」の回答が令和2年11月の約3割から横ばい。一方、「増産」の回答が令和2年11月の約2割から約3割へと若干の増加。

○原木の入荷状況

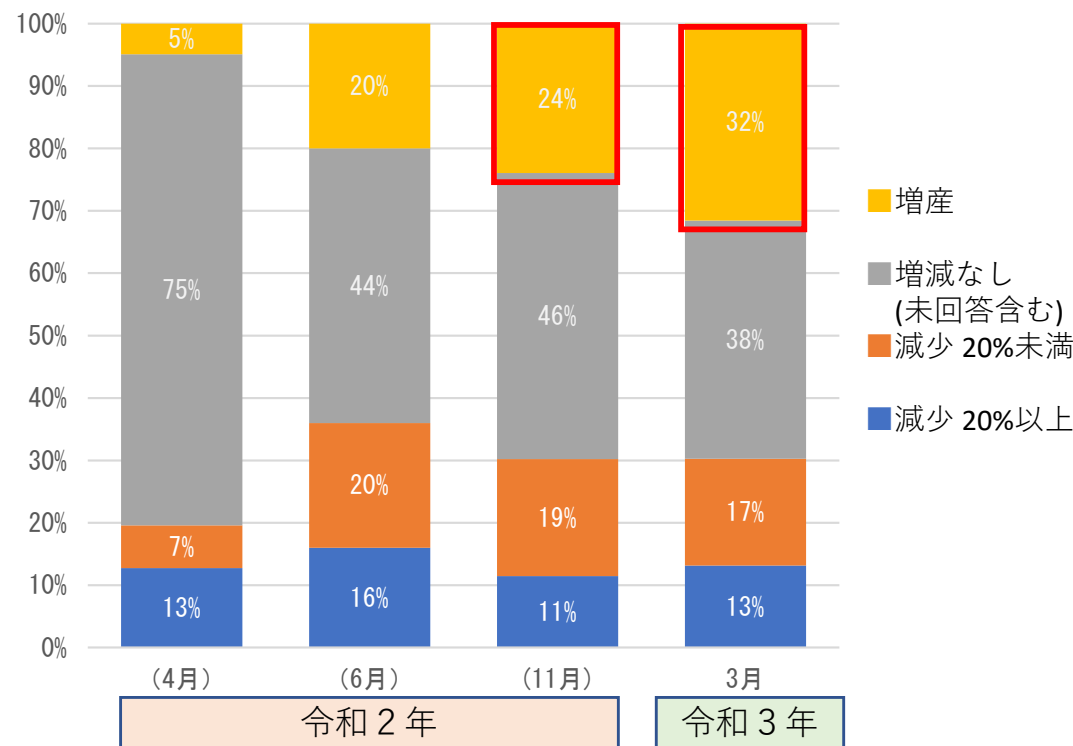


（増加理由について、コメントなし）

【減少理由】

- 1月～2月の豪雪の影響により、素材用原木の入荷が滞ったため
- 燃料用チップについては変動が少なく原木の入荷制限なし。製紙用チップについては紙の需要が厳しく、原木の入荷制限を含め減産の可能性

○製品の生産状況



【増産理由】

- バイオ向けチップは変わらず引き合いがあるので、生産量維持出来る見込

【減少理由】

- 原木が不足し新しい丸太ばかりのため、寒い時期は丸太の皮がむけづらく時間がかかることから生産が伸びていない

※ 回答数は令和2年4月：102社、6月：100社、11月：96社、令和3年3月：76社
資料：林野庁木材産業課調べ 調査対象：全国のチップ工場（木材チップ生産量1万t/年以上）